

## 令和4年度 第2回女性応援会議 議事録

日時 令和4年12月20日(火)

午前9時30分～午前11時

場所 市役所7階721会議室

〈参加者〉

委員：渡邊委員(委員長)、加茂委員、松井委員、渡辺委員、深澤委員

アドバイザー：白井教授

事務局：佐野市民部長、伊藤市民交流課長、高山女性が輝くまちづくり推進室長、田村主任  
主査、古川主査

〈次第〉

1 開会

2 市民部長挨拶

3 協議案件

(1) 令和4年度 富士宮市の女性活躍推進事業の取組の評価について

(2) 令和5年度事業 大学コンソーシアムの活用について

4 報告案件

(1) 富士宮市女性応援会議×第一生命保険株式会社コラボ企画について

(2) 令和4年度「家族」フォトコンテストについて

5 閉会

〈協議案件〉

【議長】

事務局から、協議案件(1)として「令和4年度 富士宮市の女性活躍推進事業の取組の評価」が提示されています。このことにつきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

この案件を議案に入れた理由といたしましては、富士宮市の女性活躍推進事業であり、妊娠出産子育てシェアサポート及びふじのみやハハラッチ事業が、国から地域女性活躍推進交付金の交付を受けているところから、その事業に対し、評価ご意見をいただくよう指示がありまして、この度議案として挙げさせていただきました。せっかくの機会ですので、皆様からご意見をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

ひとつめとして、妊娠出産子育てシェアサポート事業になります。この事業は、女性が妊娠出産を機に社会と関りが希薄になることから、そういったお母さんたちが社会復帰をするということと、妊娠出産子育てを行っていく上での悩みや不安を解消するためにお母さん同士のコミュニティを目標としています。また、地域全体を巻き込んで支援のネットワークをつくることで、この事業にかかわっているお母さん、スタッフとしてかかわっているお

母さんそれぞれを社会に繋いでいくことで、女性の社会進出を推進していく事業になります。そのための講座や相談を行っています。

令和4年度の中間の実績を説明いたします。

取り組みの1点目が、PLAYDAYと称し全8回を予定しているものです。これはまず安心して子育てができるような安心感を持ってもらう、不安を解消してもらうことを目的とし、お母さんやお子さんが集まれる居場所づくりを行い、妊娠出産子育ての不安を相談する場、お母さん同士がコミュニケーションを取り合える座談会のような講座を開催しております。

2点目は、FORMEDAYと称した講座相談で、全6回を予定しております。PLAYDAYはお母さんやお子さんのメンタル的なフォローを行うところですが、FORMEDAYにつきましては、女性の活躍を促進するために、子どもを連れてでも自分のための時間を過ごせる場所の提供を行っており、使い方としては手作業や資格の勉強、大学のレポートの作成を行うなど、様々なことに活用いただいております。また、女性のスキルアップやキャリアの促進に対する講座や相談も行っております。講座の講師としては、過去シェアサポート事業のなかで講師の体験をしたお母さんが実際に講師として取り組んでいます。

3点目は、TRYDAYと称した取り組みで、全4回を予定しております。こちらは実践的なものになっており、スキルを持ったお母さんがそのスキルを人に披露したり提供したりする機会を持つことが難しいことから、そういったお母さん自身が講師となり活躍する場を提供することを目的として取り組んでいます。お母さん一人で考えるのではなく、スタッフの助けを借りながらチラシや講座内容の構築に取り組んでいき、講座を開催する流れで行っています。いままで、バランスボールエクササイズやお子さんと一緒にヨガなどが行われています。

4点目は、支援ネットワークの強化になります。子育てネットワークである「富士宮市子育て未来LAB.」を活用し、相談内容によって情報提供や団体紹介を行うほか、交流会の中で出た意見をもとに、各団体を紹介する紙面を作成、配布を予定しております。

講座の内容など毎回満足度が高く、回数を重ねるにつれて気持ちが前向きになっている傾向もみられるため、継続性が必要である、お母さんたちが望んでいるのではないかと感じております。

ふたつめの、ふじのみやハハラッチ事業に移ります。

この事業は、子育て中にご自宅で家事や育児に取り組んでいるお母さんが、社会に触れあっていく機会が少ないことから、それを解消するためにスタートした事業です。記事を書いたり写真をとったりというスキルに重点を置き、それに特化したスキルアップの講座を8回程度受講していただき、市の情報発信を行っていただきながら、社会との繋がりを創出しています。

実績としては、7期生ライターを8名育成し、総勢48名が市後任のライターとして活躍しています。また、令和4年度記事掲載件数は令和4年12月現在で58件と順調に増加しており、年間総閲覧数20万件超と多くの方にご覧いただいております。また、同様の事業を行っているほかの自治体や団体と交流を行い、記事の講評や同日公開記事の作成など、互いのスキルアップに取り組んでいます。

事務局としては、今年度も滞りなく進行し、おおむね目的も達成していると考えます。皆様のご意見をお願いいたします。

**【議長】**

事務局から説明がありましたが、このことについてご意見を伺いたと思います。

**【加茂委員】**

妊娠出産子育てシェアサポート事業の告知の方法はどのようにしていますか。

**【事務局】**

告知は、年間ガイドを配布しております。各施設のほか、市内幼稚園保育園などに児童人数分配布し、一家庭1枚届くようにお願いしています。

**【加茂委員】**

どのくらいの子どもを育てているお母さんを念頭にしていますか。

**【事務局】**

子育て中ならいくつのお子さんのお母さんでも問題ありませんが、一番社会との関りが希薄になり、自分のための自由が難しいため、基本的には未就学児のお母さんを念頭に置いています。

あと、広報ふじのみやでも毎月お知らせをさせていただいております。

**【加茂委員】**

すごくいい事業だと思います。やっていることも面白そうなので、いろいろな交流とかもできればいいと思います。

ハハラッチはライターさんを育成して48名ということですが、やれるタイミングで記事を書いてアップするということがいいですか。

**【事務局】**

ボランティアでの活動になりますので、そこがお母さんたちの活動のしやすさにつながっていると思います。ご自身が興味あるものを取材していただいて、市が運営しているブログに記事をあげていただいたり、市からの依頼で取材をしていただいたりと市に貢献していただいています。

**【加茂委員】**

ハハラッチはたまに見ていて、もっとやれる方がいればいいなと思っています。

**【松井委員】**

随分充実していると感じました。社会参画を考えると産休育休をした職員が学校に戻ってくるというイメージを持ってしまうのですが、ここはそうではなくて、自分が社会とどう繋がっていくかを大切にしているのかなと思いました。復職するうえで、産休育休の期間が長く設定されているので、スムーズに職に戻るように、休みの間に情報収集をしたり、知

識技能を自分自身で上げておいて、復帰していく流れが自分も子どもも、職場の関係の中でも必要だと思います。自分の時間を過ごせるということを保証してもらえるとということで、自主研修に使えるのかなと思いました。

ハハラッチのほうは、人数も掲載件数も増えているとのことですが、1期生の方達は随時参画をしていますか。

#### 【事務職】

ライターの所属はあくまで卒業をしたいという意思がない限りは継続ができるものになります。1期生の方になるとご自身でやりたいことを見つけてそちらに重点を置いたり、職場に復帰されてお仕事に取り組んでいらっしゃる方も見受けられるようになりました。ただし、ハハラッチライターに所属しているということが、お母さんたちの心の拠り所になっているとの話も聞いているので、自分が活躍していく中でも、相談が気軽にできる居場所として活用しているのも、新しいハハラッチの姿かと思います。

#### 【松井委員】

1期生、2期生の方たちがどのように社会に参画しているかがこの事業の評価につながっていくと思います。

#### 【議長】

好意的なご意見が多かったことから、委員としての評価は事務局と同様おおむね達成しているということによろしいでしょうか。

#### 【委員】

(うなずく)

#### 【議長】

ありがとうございます。では、白井先生からもご意見をお願いいたします。

#### 【白井教授】

質問したいことがあります。育児相談を受けているということで、どのような方が受けているか教えてください。

#### 【事務局】

事業が委託事業になっていまして、その団体の有資格者の方をお願いしています。資格としては、助産師、看護師の資格、マネジメントの資格をお持ちの方が相談に乗っています。

#### 【白井教授】

ありがとうございます。

母力向上委員会さんの活動を後押しし、市民の相談場所や居場所の確保を広げていくた

めにも、ほかの団体の活動を紹介させていただきます。

福岡県で『じじっか』という活動をしている団体があるのですが、同じように居場所を持っていて母親がネットワークを作っています。そこはひとり親支援事業をメインでやっていて、富士宮市のひとり親支援においても委託するのでもいいと思います。

また、全国の母親の居場所となっているところにおいては、子どもが成長するにつれて相談の幅が広がっていくことから、引きこもり支援や不登校支援、若者の就労支援の相談事業の場所として使わせてもらったりして、より人が来やすいところにするのもあるので、母力さんが活動をより広げられるのであれば相談するのもありだと思います。

じじっかでは、母親の起業支援もしていて、商工会だったり経済の振興のほうで女性や男性の起業もコラボできるかもしれません。

また、沖縄県の事業で学童保育をしているカナカナさんというところがあるのですが、日中場所が開いているので、市の委託を受けて助産師が常駐する曜日をもうけ、専門家の相談を受けられるというふうに聞いています。貧困対策事業も使いながら若年妊婦さんへの支援など、様々なことをされていると思いました。

先日長野県でお伺いしたところでは、地域の郷土史をまとめる助成金を活用して、お母さんたちに地域の年配者へのインタビューをお願いして、寺領をまとめていただいているということで、郷土史や女性史をお願いするのも活動の幅が広がるのではないかと思います。

#### 【議長】

これ以上意見がないようですので、協議案件（１）については以上となります。

続きまして、協議案件（２）令和５年度事業 大学コンソーシアムの活用について とうつります。事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

この案件につきましては、令和５年度事業として取り組めればと思い、事務局から提案として挙げさせていただきました。

事業の目的としては、女性活躍を考えるうえで、これから就職をしていく世代であり、ワークライフバランスに重点を置いている、現役の学生（大学生）との関わりが重要であると考えます。学生に調査研究を依頼することで、学生目線で富士宮市を分析してもらい、富士宮市の女性活躍を検討及び推進することの一助にしたいと考えております。

大学コンソーシアムの概要ですが、正式名称はふじのくに地域・大学コンソーシアムとなります。静岡県内の高等教育機関相互の連携を深め、地域で広範なネットワークを形成し、教育力・研究力の一層の向上を図るとともに、地域社会の発展に寄与していくことを目的として、平成２６年に設立し、翌年、静岡県から公益認定を受け、公益社団法人となり、令和４年６月現在、２１の大学等高等教育機関、２２の自治体及び２つの公共的団体が正会員となっています。

この大学コンソーシアムがいくつかの事業を持っていて、そのひとつが、ゼミ学生等地域貢献推進事業で、大学（学生を含む）と地域の交流の拡大を促進し、直接的な大学の知の地域への還元及び県内地域の振興に寄与するため、県内の地域課題について、地域と一体

となって、解決方策の提言や課題解決のための実践的な研究を行う県内大学等のゼミナール及び地域活動団体に対し、大学コンソーシアムが助成を行っているものになります。流れは、大学コンソーシアムを通して、自治体が地域課題を提示し、それに対して、県内大学ゼミ等が研究方法を提示。採用後調査研究を行い、結果を発表する形です。

予算としては、富士宮市が大学コンソーシアムの会員であり、年10万円の会費を支払っているためこの事業における市の負担はありません。

スケジュールは、令和4年度を参考に作成しております。会員への地域課題の公募は令和4年12月中旬から令和5年1月末、ゼミ等への公募は令和5年4月下旬から5月末。6月、7月と2回審査があり、令和5年1月末まで調査を行い、結果発表を行います。

留意点が1点ございまして、自治体のほうから地域課題を挙げることは差し支えありませんが、大学側のほうから手が挙がらない可能性がありまして、100%採択が約束されたものではないことをご承知おきいただきたいと思います。

課題の提案については、女性の活躍する企業づくりとし、概要としては、全国的に見て富士宮市は妊娠出産で復職する女性の数が少ないという問題が現状としてあります。女性活躍を実現していくために、その要因と企業に何が求められているのかということ进行を明らかにできれば今後の施策に生かしていけると考え、この内容を考えました。

希望する研究内容や期待することは、学生目線があるということになりますので、女性が復職、就職する中で、これから就職活動を行っていく、当事者となっていく学生に提案をしてほしいと思います。

連携する団体としては、女性応援会議の、関係各課、また市内企業や商工会議所にもご協力を求めたいと思います。

皆様からご意見をお願いいたします。

#### 【議長】

ありがとうございました。このことにつきまして、ご意見などはありますでしょうか。

#### 【深澤委員】

大学と協力することはすごくいいと思います。これは学生側にとっても企業側にとってもメリットがあると思います。これから就職活動を迎える学生ということで、富士宮の企業を知ってもらえることで、イメージしていた業界以外も知ることができると思います。結果、市のPRにもつながればと思います。

自分も務めている会社以外の環境を知らないので、業界の特徴もある中で、共通したサービスとかがわかればいいなと思います。ぜひ女性応援会議の場を活用しながら、来年度協力させていただければと思います。

#### 【渡辺委員】

学生という立場で若い目で意見をもらうのはいいことだと思います。課題タイトルですが、女性が活躍する企業づくりとなっていますが、これは決定ということですか。

**【事務局】**

まだ案になります。今後、あげていって大学側が手を挙げてくれれば採用となります。

**【渡辺委員】**

先ほどの説明にもありましたが、若い女性が妊娠出産育児を理由に職を離れ、復職率が低いということで、やはり地元の企業との連携によって、企業側にとっても若い女性の復職について悩んでいることがあると思うので、うまくマッチしていけば働く側と雇用する側の連携がとれれば問題も解決できると感じました。

市内企業の協力も必要となってくるので、それがどのような形での協力になるかわかりませんが、我々も協力できればと思います。

**【議長】**

ありがとうございます。では、白井先生からもご意見をお願いいたします。

**【白井教授】**

コンソーシアムで手が上がる確率のような、過去の実績はありますか。

**【事務局】**

今現在、課題にもよりますが、市として毎年1件あげさせていただいておりまして、それが毎年採用されています。

**【白井教授】**

コンソーシアムを活用しての大学生に調査をしていただくというのはいい効果があると思って、ご案内をさせていただきました。というのも、学生さんに調査してもらうということ自体が経験にもなりますし、市のほうで広報するとか調査報告会のようなものを開催することで、みなさんに周知することで、取り組みを周知する機会になると思うので、ぜひ手が上がることを願っています。

私自身も調査の研修を行っているので、手をあげられればと思っていたのですが、大学側のスケジュールと合わず断念しました。大学は、差はあるものの12月上旬にシラバスを書かないとならなく、ゼミの内容が決まってしまう。そのような縛りがあること、補助金が使えるかわかるタイミングが、後期に授業があるゼミしか手があげられないというネックがあります。

手を挙げてくれそうな先生方に事前にお話をしておいたほうが安全かなと思います。また、複数手が上がったかどうかという問題も出てくると思いますので、考えておいたほうが良いと思います。

**【議長】**

ありがとうございます。ほかに何かありますか。

**【事務局】**

先ほど渡辺委員から、女性の再就職について地元企業と協力する場を設けたほうがいいというご意見をいただきましたが、富士市と共同でいろいろな企業さんに集まっていたいて、若い人が地元が集まってくるようにどんなことができるか考えるワークショップの場を設けております。

**【議長】**

これ以上意見がないようですので、協議案件については以上となります。

続きまして、報告案件（１）富士宮市女性応援会議×第一生命保険株式会社コラボ企画について につります。事務局から報告をお願いします。

**【事務局】**

この企画は、令和４年度の女性応援会議の事業として、第一生命保険株式会社様のご協力のもと無事開催させていただきました。講師を第一生命経済研究所の的場様にお願ひし、後半では白井教授にもご協力をいただきながら、人生１００年時代を見据えた、働き世代の自分らしい幸せについて考える機会を提供することができました。

タイトルは、「幸せ」視点のライフデザイン～働き世代が自分らしく輝くために、９月１２日に開催できました。参加人数はオンライン参加を含め７６名、アンケート回答数は６１名でした。成果としては、講演の感想で、『良かった』『まあまあ良かった』が８０％以上であり、高い満足度を得られました。また、家事育児だけではなく、自分の学びについて考えることができたことから、そのような機会の場を設けることができたと感じます。この講演会を借りて、多くの方に女性応援会議について周知することができました。また、リアルとオンラインの併用開催ということで参加ニーズに応えられたと思います。課題としては、会社からの申し込みを期待し、平日の日中の開催としたが、なかなか振るわなかったため、周知にさらなる工夫が必要だったと感じました。

報告は以上です。

**【議長】**

ありがとうございました。このことにつきまして、ご意見などはありますでしょうか。

ないようですので、次の報告案件につります。報告案件（２）令和４年度「家族」フォトコンテストについて 事務局から報告をお願いいたします。

**【事務局】**

このフォトコンテストは、女性応援会議からの提案で始まり、育児や家事、そして仕事に忙しい女性の支えとなるものの一つが家族であるという考えから、自分の家族、そしてほかの家族を見て自分の家族を見つめなおす機会として開催しているものですが、今年度も多くのご応募をいただきました。

申し込み作品数は過去最高の１１５点をいただきました。コロナで外出も難しいなかで、逆に家族の時間が増えたことがこの結果に結びついていると考えます。



結果として、最優秀賞1点、優秀賞3点、企業特別賞6点 の計10点が受賞しました。素敵な作品が集まり、協賛企業の方々から副賞もいただき、修了式もあたたかい雰囲気で開催することができました。また、来年度も企画をする予定でございますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

報告は以上です。

#### 【議長】

ありがとうございました。このことにつきまして、ご意見などはありますでしょうか。ないようですので、白井先生から全体の総括をお願いいたします。

#### 【白井教授】

コラボ講演会ですが、内容がすごくポジティブで自分のキャリアについて考える機会になったと思います。アンケートの自由記述で皆さんが様々なことに興味関心があるということがわかりましたので、もしよければ次年度も何かができればいいのかなと思います。また、別の事業を活用して女性応援会議のアピールをできればと思いました。例えば、自由記述に男性の働き方という言葉もありましたので、会社の事例などを報告する機会があればと思いますし、コンソーシアムで調査研究がありましたら、調査報告会と地元企業の取り組みの紹介を一緒に行うのもいいと思います。

フォトコンテストは、過去最高の件数ということで広まってきていいと思います。私は、里親とか養子縁組とかの写真展を開催しておりますが、その経験から言うと、一週間市役所だけでなく、別の場所でも巡回して、見てもらう機会をふやしていくのもいいと思います。